

教団新報

定 価 1部144円(本体133円+共26円)
予約購読料 1年分 千共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋 山 徹
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



新三役を選出した教区総会

2019年度 ① 九州・四国・北海・大阪 教区総会報告 3教区で新議長を選出

九州 教区

日下部新議長、西岡新副議長、新堀書記を選出

5月6日から3日間、福岡中部教会で開催され、議員231名中、開会時159名が出席した。

梅崎浩二議長は、35分間、8頁に及ぶ長文の議長報告で、先ず熊本・大分地震被災教会15教会に触れ、「修復・再建教会11。部分補修教会2。着工待ち教会1。残る玖珠教会は、まだ計画も立っていない。その後も九州北部豪雨で、九州諸教会は、災害への対応に追われている」と報告した。

一日夜行われた議長選予備選では、梅崎浩二、川島直道、日下部道志3議員が上位3者となったが、梅崎議員が「3期6年務めたので」と辞意を表明し、二日目午前の再選挙となった。選挙結果

は、日下部道志(88票)、川島直道(38票)、梅崎浩二(6票)と、日下部道志議長(川内)が選出された。

日下部新議長は、37年間、九州で育てられた。副議長を3期6年務めて、初めて議長選に名を連ねたが、支え合いの大切さを何よりも感じている」と語った。

同日午後4時30分、続いて行われた副議長選は、西岡裕芳(89票)、川島直道(48票)、新堀真之(14票)と、西岡裕芳議員(福岡警固)が初副議長。正副議長推薦の副議長。石橋秀雄議長の改定構想説明が中心だった。会場は静かだったが、二日目午前、秋山総幹事の問安挨拶に、質問が相次いだ。

だが、挨拶の内容でなく、教団内の東西論・執行部対九州教区という教団内の本質論に関するものが多く、十分には噛み合えず、議論にまではならなかった。

九州教区が重要視している宣教基本方針は、更新期を迎え、来年度まで2年間の基本方針が提案された。議場から「異なる意見の切り捨てはいかなるものか」などの異論が相次いだ。採決の結果、131対52で修正案

は否決された。三日目午前、韓国・群山老会代表6人が、総会を訪問し、議場の歓迎を受けた。九州教区は、2002年、郡山老会と宣教協約を締結しており、本年3月、梅崎議長が第6次宣教協約を韓国で締結した返礼としての総会訪問。3日間の総会で、会場が最も沸き返った時だった。

18年度決算は5289万2351円で、前年比18万3911円増。19年度予算案は5602万1580円で、前年比2万3680円増だった。

熊本・大分地震被災教会再建募金は、本年3月末1億5514万8323円、目標の86%で終了したことを報告した。

四国 教区

西日本豪雨被災支援について報告

4月29・30日、ホテルグランフォーレ(四国中央市)にて第77回四国教区総会が開催された。開会時出席議員数は151名中122名だった。

開会礼拝後、組織会を経て直ちに議長選挙を行った。議長選挙および副議長選挙に先立ち、黒田若雄議長が議場に立候補を確認したが、立候補者はいなかった。三役が再選された。

常置委員会は松井曉郎書記を通して「2018年度の四国教区の活動の中心は「西日本豪雨による被災に対する支援の取り組み」だったと報告した。教区として初めて『教区災害対策ガイドライン』を運用して被災支

援活動を行い、課題も明らかになった。この経験を総括し、南海トラフ地震への備えが必要と、今後の展望が告げられた。今年度は西日本豪雨のために教育活動が一部中止になるなど災害の影響が報告された。

四国教区では2015年からハラスメントの問題に取り組み、2017年度より常置委員会のもとにハラスメント対策委員会を組織して『ハラスメント防止と問題対応に関するガイドライン』を作成、2018年度には『四国教区におけるハラスメントに関する基本方針とその対策』『ハラスメント対策委員会規則』『ハラスメント相談窓口

規則』『ハラスメント調査委員会規則』を制定して2019年2月25日より施行している。この取り組みの中で、総会の初日夕食後は「ハラスメント問題に関する学び」の主題のもとに協議会が行われた。大田健悟ハラスメント対策委員会委員長(司会)により、黒田議長、成田信義差別問題特別委員会委員長、松井書記が発題を行った。

活発な質疑応答を経て、この世界的なハラスメント対策ではなく牧会的な取り組みを求める姿勢が示された。



「ハラスメント問題の学び」を開催

翌二日目朝、2018年度に逝去された教職4名の追悼式に続き、准三役選挙結果

北海
教区

原新議長、卜部新副議長、齋藤新書記を選出

4月29～30日にかけて、札幌北光教会を会場に、第79回北海教区定期総会が開催された。開会時の議員数は、123名中102名であった。

開会礼拝直前に、1名の按手、1名の准允について、賛否が議案として議場に諮られた。久世所長は、現在の教団の二種教職制度の問題点に触れ、「この制度の中であえて補教師の立場に留まる教師がいること、苦渋の選択の中で正教師試験に臨む教師がいるこ

とを覚えて、今後も教団の教師制度の問題点に向き合いたい」と語った。議場は議案を承認し、一人の補教師、一人の正教師がたてられた。

議長総括で議長は、「前年の教区総会で、大嘗祭を国費で行わないことを要請する決議、憲法改正に反対する決議、アイヌ民族の権利回復運動推進決議という3つの特別決議を可決したが、それから一年、決議で表明された社会への危機はさらに深まっている」とした。

また、「教区内の諸教会はそのような社会状況の中で、苦悩を味わいつつも福音に導かれ、『革新・連帯・平和』という福音理解のもと恵みを体験してきた。牧師不在の教会もあるが、信徒の奉仕や各個教会のみならず、教会間の協力による活動が行われている」と述べた。

法定議案以外の主な議案として、大嘗祭及び即位礼正殿の儀の中止を求める議案、憲法9条改正に反対する議案、沖縄辺野古の米軍基地建設に反

対する議案、日本の防衛政策・原子力政策の転換を求める議案、アイヌ民族の権利回復運動を推進する議案等が議された。

教会が社会にどう向き合うかが議論され、おおむね賛成前向きな意見の中、一部、議案の内容については賛成だが、このような議案を総会で可決することに反対するといった意見も聞かれた。

教団問安使は秋山徹総幹事。教団機構改定について資料をもとに説明した。質疑応答では、議長

挨拶について、特に沖縄問題に関する質問意見が多くあった。「少しづつではあるがやり取りがなされているので、見守ってほしい」と総幹事が応じた。

選挙は議長、副議長、常置委員半数改選の選挙であったが、三役が一新された。

三役選挙結果

【議長】原和人（手稲はこぶね・札幌富丘）、【副議長】卜部康之（千歳栄光）、【書記】齋藤開（旭川星光・美馬牛福音）



左から、卜部副議長、原議長、齋藤書記

大阪
教区

有澤新議長、尾島新副議長、宮岡書記を選出

大阪教区総会が5月3～4日、大阪女学院ヘーリチャペルで、開会時、議員194名が出席して

で行った。

常置委員会報告に関する件では、小笠原純議長が、主たる取り扱い事項を報告した。

大阪北部地震、台風21号の対応について、被害の大きかった教会に見舞金を送ったこと、会堂建築貸出金規定に「災害規定」を設けたこと等を報告した。

教団伝道資金への対応について、19年度も負担金を納めると共に交付金を申請する予算を立てたことを報告。「現在の制度に教区としては反対しており、申請については

常置委員会でも意見が拮抗している」と述べた。

東日本大震災「支援特別委員会」について、19年3月をもって終結したことを告げ、「引き続き、山崎知行医師を東北に派遣する」と述べた。

三役選挙においては、7月から他教区に転出する小笠原議長に代わり有澤慎一議長（池田五月山）を、有澤副議長に代わり尾島信之副議長（南大阪）を選出。宮岡真紀子書記（北千里）が再選された。

教団と沖縄教区との関係が再構築され、「教団沖縄宣教連帯金」減額分2分の1（40万円）を大阪教区が担う件を、164名中107名の賛成で可決した。「教団を批判する形での応援は考え直すべき」との反対意見、

「教団が減額した歴史的事実は重く受け止めてはならない」との賛成意見があった。

その他、「北村慈郎教師戒規の問題点を明らかにし、戒規適用が無効であることの確認をする声明を出す件」を151名中98名の賛成で可決、



左から、尾島副議長、有澤議長、宮岡書記

「天皇代替わり儀式に反対する声明を大阪教区から出す件」を142名中

120名の賛成で可決した。また、緊急動議として、4月24日に行われた「あいりん総合センター」の強制的な閉鎖に抗議する件が出され、154名中133名賛成で可決した。

教区では機構改革について、話し合いを重ねて来ているが、今総会では、委員会の定数割れに対応すべく、宣教師と諸委員会の定数を削減する規則変更を可決した。また、三つの伝道所の廃止が決議され、「心痛む」事柄として受け止められ、祈りが捧げられた。

教団問安使として石橋秀雄議長が挨拶し、質疑応答に時間を割いた。北村慈郎教師の免職について、撤回と謝罪を求める



岸俊彦小委員会委員長、基本方針展開について説明

意見、沖縄との関係について、33回総会における審議未了廃案を謝罪し、協力金を元に戻すことを求める意見等があった。

常置委員選挙結果

【教職】山田真理（扇町）、井口智子（河内松原）、老田信（大阪聖和）、上地武（箕面）、一木千鶴子（高石）、林邦夫（大阪城北）、大澤星一（西大和）、中西真二（小阪）、吉本幸嗣（岸和田）、田邊由紀夫（茨木）、森田恭一郎（河内長野）

【信徒】鈴木恵美子（馬見勞務、山崎喜美子（愛隣、黒野忠和（東梅田）、東谷誠（いずみ）、西浜櫛和（西大和）、寛正彦（茨木東）、中村賢治郎（小阪）、寛伸子（茨木東）（嶋田恵悟報）

第 41 総会期

常議員会

第3回（臨時）

伝道推進基本方針改訂を決定

(3)教団機構改定を承認し、19年度教区総会の開催に向けて各教区に送付することが提案された。

「基本方針の改訂」では、宗教改革500周年を踏まえた文言となつていて、箇所改訂が提案された。

「基本方針の展開」では、基本方針が提示する三つの運動の具体的な展開が提案された。「祈祷運動」では、伝道推進日を知らせ、ポスター、チラシを送付すること、「信徒運動」においては、信徒養成のための学びの機会をもつことを呼びかけ、講師を派遣すること、

また、機構改定については、「前出の骨子の方が具体的な内容に触れられており提案は骨子より後退している」との意見があった。

議長団は議案を、「教団伝道推進基本方針改訂の件」と「教団伝道推進・機構改定に関する件」に分割することを提案し議場は承認。「基本方針の改訂」は、今常議員会で改訂を決定するのに対し、「教団伝道推進・機構改定」は、いずれも内容の確定ではなく、直ちに何かを執行するものではないことが確認された。両議案を賛成多数で承認した。

その他、一つの教会の教団加入、4名の教師の退任を承認した。（嶋田恵悟報）

▲教師委員会▲

新任・中堅教師研修を計画準備

41総会期第1回教師委員会が、4月5日、教団会議室にて開催された。委員の交代もあり初めての顔合わせとなったのでお互いの短い挨拶を交わしてはじめた。

招集者である古旗誠を委員長に選出し、書記には上原智加子を選んだ。その他、今期の委員には

の準備をした。

新任教師オリエンテーションは、19年6月10

12日、ハートピア熱海で開催する。参加者は、18

年秋、19年春受験合格者等新任教師と前回・前々

集会は、新任教師にとって神学校の違いを超えて教職間のよき出会いと交流、そして優れた講師や教団議長、神学校の教師たちを通して牧会上の労苦を担っていく上での励ましと豊かな慰めを与えられる機会となっている。その他、東中国地区の被災地への取り組みに

ついて報告を依頼している。対象者は准允および転入後10年までの教師である。

教師継続教育研修会

は、19年8月20～22日、ハートピア熱海で開催する予定になっている。昨年同様「説教と牧会」という主題で、優れた講師陣に講演を依頼している。教師継続教育の大切さを理解し、教会あげて教師を送り出していた

(上原智加子報)

教団伝道推進基本方針

「イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしろ。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」

(マタイによる福音書28章18～20節)

1. 祈禱運動 ー共に祈ろうー

主の伝道命令に従い、500年を経た宗教改革の信仰を受け継ぎ、罪の悔い改めと救いの感謝の祈りをささげるために「日本伝道の推進を祈る日」(毎月第3主日)を設けて共に祈りを合わせる。

2. 信徒運動 ー共に伝えようー

礼拝において聖霊の力を受け、聖書を読み、熱心に祈り、喜びをもって主の恵みを証しし、キリストの十字架による罪のゆるしの福音を宣べ伝える信徒として共に成長することを目指す。

3. 献金運動 ー共に献げようー

日本の各地にあって、日夜伝道のために苦闘している教会・伝道所を具体的に覚えて祈り、その働きを支えるために共に献げることによって、信徒および教師における献身の志が高められ、献身者を生み出す教会となるように献金運動を展開する。

2017年7月11日 40総会期第2回常議員会 制定
2019年4月15日 41総会期第3回常議員会 改訂

今総会期研究テーマを協議

▼宣教研究所委員会▲

第41総会期第1回宣教研究所委員会が4月12日に教団小会議室において、秋山徹総幹事、道家紀一担当幹事陪席のもとで開催された。委員の構成は岡本知之(招集者)、熊江秀一、小林光、柴田彰、高橋和人、寺田信一、長山道の7名である。各

委員が短く自己紹介をした後に、宣教研究所の任務の確認を岡本委員が冊子『宣教研究所50年の歩みと今後』に基づいて

研究チームの報告をまとめた後に、宣教研究所の任務の確認を岡本委員が冊子『宣教研究所50年の歩みと今後』に基づいて

次に組織について協議

し、委員長に岡本知之、書記に小林光を選任した。岡本委員長より、初回の委員会なので自由協議にしたいとの提案がな

る。この時代をどう捉えるかが課題。◎地方での伝道を考える◎教勢低下は著しい。高齢者への伝道も大切な課題である。意欲的だけに疲れている伝道者が多い。地域での相互牧会がなされてい

ない現状がある等。

最後に、今後の委員会について協議し、今回の自由協議を参考にして、今総会期で取り上げたい研究テーマを各委員が挙

げ、それに優先順位を付け、項目ごとに委嘱者の名前など具体案があればそれも添えて書記に送り、書記はそれをまとめて次回の委員会に備えることとした。



後列左から、熊江、寺田、柴田各委員
前列左から、小林書記、岡本委員長、高橋委員

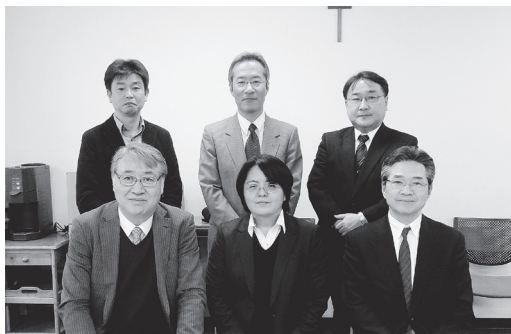
の点からA1など、今後

の点からA1など、今後

(小林 光報)

▼教師養成制度検討委員会▲

「二種教職制」検討、委員会としては終了



後列左から、日下部、松木田、菅根各委員
前列左から、古旗委員長、上原書記、高橋委員

41総会期教師養成制度検討委員会第1回(1月11日)、第2回(3月1日)、第3回(4月22日)が開催された。委員長・菅原力、書記・東野尚志、委員・石橋秀雄、岡本知之、古旗誠、協力委員・小宮山剛。

当委員会の役割と課題は、常議員会のもとに置かれた(常設ではない)委員会として、神学校との協議を継続し、教師養成の課題と内容を整えて

行くと共に、教師の生涯教育としての継続教育充実のため、関係委員会と協力することにある。

特に今総会期は、教師養成制度検討会議による「答申書」(2014年2月3日)をもとにして、その具体化を求めて行くことと、神学校との協議を進めながら、教師養成についての具体的な要請を提示できるよう準備することを確認した。以下、その取り組みを記す。

行くと共に、教師の生涯教育としての継続教育充実のため、関係委員会と協力することにある。

(1)教団立神学校との協議を継続する中で、信仰告白と教憲に立つ公同教会としての在り方を求め、その形成の道筋について協議し、「答申書」に記された内容を踏まえつつ、教団の教師論を深める。

(2)認可神学校との協議においては、教団がどのような教師を立てようとしているかを明確に言語化して提示することを目指し、それをもとにして

対話を継続できるように準備する。

(3)関係委員会との連携を進めるため、教師委員会による継続教育研修に協力すると共に、教師検定委員会による受験科目見直しの背後にある教会と教師の現状に対する危機感を受けとめ、課題を共有して行く。また当委員会としても、教団の教

会論と教師論についての学びを進める。

なお、前総会期の委員

会に課題として託された「二種教職制」をめぐる検討は、第41回教団総会において教憲9条変更議案が取り下げられた

め、当委員会における協議・検討は終了する。今後の取り扱い協議は議長と常議員会の判断に委ねる。

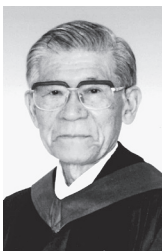
(東野尚志報)



後列左から、古旗、石橋、小宮山各委員
前列左から、東野書記、菅原委員長、岡本委員

事務局報

菅沼英二氏(無任所教師)



19 年 3 月 24 日逝去、87 歳。愛知県生まれ。57 年東京神学大学大学院卒業。同年より甲子園、中野桃園教会を牧会し、酪農学園に務める。遺族は妻・菅沼祥子さん。

青佐春見氏(犬飼教会主



任担任教師) 19 年 4 月 11 日逝去、69 歳。福岡県生まれ。04 年東京神学大学大学院卒業。同年より犬飼教会を牧会。遺族は妻・青佐都美さん。

指宿文二氏(隠退教師)



19 年 4 月 18 日逝去、92 歳。鹿児島生まれ。62 年関西学院大学大学院卒業。59 年より伏見、甲子園、国分教会を牧会し、99 年隠退。遺族は妻・指宿明子さん。

小林 有氏(隠退教師)

19 年 5 月 4 日逝去、85 歳。愛媛県生まれ。60 年日本聖書神学校卒業。同年より西千葉、むさし小

山教会を牧会し、99 年隠退。遺族は妻・小林知子さん。

立石賢治氏(隠退教師)



19 年 4 月 21 日逝去、100 歳。北海道生まれ。82 年農村伝道神学校卒業。同年より月寒、西札幌教会を牧会し、01 年隠退。遺族は娘・立石貴美子さん。

教師異動

高知通町就(代)黒田若雄 松野 就(主)宮川泰三 島田 就(代)黒田若雄 解(主)岩見誠司 下田 解(主)岩見朋子 紀伊岩出 就(主)高田昌和 就(兼主)東 歩 熊本白川就(主)栗津安和 大三沢 就(主)富山 信 石岡 就(主)栗澤秀夫 館林 就(主)篠原愛義 就(主)遠藤歡二 宇都宮上町 辞(主)川崎猷一 就(代)横山基生 延岡使徒辞(主)市来章三 就(主)川崎猷一 福岡中部辞(担)竹井真斉 宇佐 辞(主)小西美智子 就(主)小西美智子 豊後高田 就(主)竹井真斉 辞(兼主)小西美智子 就(兼主)竹井真斉 豊澤 辞(担)和田芳子 東海 辞(代)吉澤 永 就(主)和田芳子 目白町 辞(主)中村 彰

辞(兼担)土肥研一 就(兼主)土肥研一 滝野川辞(主)西之園路子 野田 辞(主)亀井周二 就(主)西之園路子 江古田辞(主)上林順一郎 早稲田辞(担)福山裕紀子 会津若松 辞(主)八重樫捷朗 辞(担)八重樫美恵 就(主)福山裕紀子 鶴岡 辞(主)菅英治 就(主)八重樫捷朗 就(担)八重樫美恵 米沢 辞(担)立花則彰 成宗 辞(主)並木せつ子 小倉井西ノ台 辞(主)青戸宏史 国立 辞(主)穴戸 達 辞(担)宮崎 薫 就(主)宮崎 薫 就(兼担)北川美奈子 八王子栄光 辞(主)郷 義孝 辞(担)郷かしこ 下田 就(代)江口 充 島田 就(代)石井佑二 愛和病院辞教 汐碓直美 奈良 辞(主)栗原宏介 岡本 就(主)汐碓直美 就(主)奥村益良 辞(代)奥村益良 大阪 辞(主)栗原宏介 辞(代)本庄侑子 辞(担)本庄侑子 就(主)本庄侑子 就(主)本庄侑子 大阪常磐辞(主)牧浦 昇 就(代)樋川義國 石津 辞(主)迫田康洋 辞(担)迫田満寿枝 水戸中央辞(主)山本隆久 辞(担)山本英美子 就(主)柳村宏文 田園調布就(担)姜 俔米 狛江 就(担)李 倫尚 就(担)李 香奈 今津 辞(代)平山正道 就(主)桑原博文 京都丸太町 就(担)藤浪敦子 安来 辞(担)土肥香織 就(兼担)土肥香織 横田相愛辞(代)土肥香織 就(主)土肥香織 松江 辞(兼担)土肥香織 就(兼担)土肥香織 長門 辞(主)上原芳子 辞(主)上原芳子 美祢 辞(兼主)上原芳子 就(兼主)福永秀光 恵泉 辞(代)亀井拓也 就(主)上原芳子 田原吉胡辞(代)前田和之 就(代)平井克也 千里ニュータウン 辞(代)斎藤成二 就(主)能勢岳史 明石ベテル 辞(主)鈴木 眞 就(主)斎藤成二 就(担)鈴木 眞 松江古志原 辞(主)川崎 愛 就(代)遠藤誠一 神戸北 辞(代)東島勇人 就(主)川崎 愛 曾根 辞(主)真下 潤 就(代)奥村益良 淡路三原辞(担) 克巳 就(兼担) 克巳 就(兼担) 克巳 廣石 辞(兼主) 克巳 就(主) 克巳 就(兼担) 眞人 津屋崎 辞(主)木村真彦 東郷 辞(主)大教善次郎 就(主)木村真彦 春日東辞(主)青木麻里子 就(代)青木麻里子 福岡女学院中高 就(教)青木麻里子 美里 辞(主)三枝千洋 就(代)高多 新 内海 辞(主)荻野英夫 就(代)福田 哲 石岡 就(主)荻野英夫

◆ 2019 年宣教師会議 ◆

山梨・清里にて開催



今年の宣教師会議は 3 月 25・28 日、山梨県清里にある清泉寮を会場にして行われた。今回は初めてのケースとして前半の二泊三日は通常のスタイルで行い 42 名の出席。後半の一泊二日は韓国から派遣された宣教師と派遣元の担当者を対象に 17 名の出席であった。

前半のハイライトは参加者を 6 グループに分け、①中学 1、2 年生にどのように説教するか? ②青年をいかに教会に招くか? ③教会で期待される宣教師像、④今教会で話題にすべきこと、⑤教会の宣教のための企画について、⑥日本人に伝道する難しさ、等について協議した。

二日目の午前は広い敷地を持ち、清里の豊かな自然に囲まれている清泉寮の提供するプログラムに参加した。参加者を 3 つのグループに分け、第一のグループは酪農体験の中のバター作りを経験した。第二のグループはレンジャー(自然案内人)のガイドにより、安全に森の中の散歩を楽しむ。第三のグループはポール・ラッシュ記念館を見学した。ポール・ラッシュ博士は清泉寮を運営するキープ協会の創設者。日本にアメリカンフットボールを紹介した人物としても良く知られている。ラッシュ博士は広い敷地に井戸を 3 つ掘り、現在も清泉寮本館、清泉寮自然学校、キャンプ場はそれぞれ 3 つの井戸水を飲料水として利用している。多くの宣教師がこの施設を気に入り、来年の宣教師会議も清泉寮を使用する予定。

第 2 部とも言える宣教師会議を持った理由は、教団で働く約 60 名の宣教師のうち、教団の教会で主任として働いているのは韓国派遣の宣教師以外では 2 名しかない。一方韓国派遣の宣教師は 9 名。教団の教会形成に韓国派遣の宣教師の働きが必要不可欠になりつつある。

今回は現場で働く宣教師の悩みを共有する貴重な機会となった。教団三役と総幹事も参加した。

(加藤 誠報)



笹尾 光さん

み言葉の光を掲げつつ



1956 年生まれ。横浜指路教会員。茨城キリスト教学園理事長。

「光(ひかる)という名は、聖書から取られました」と語る笹尾光さん。キリスト者 4 代目、祖父には、哲学者であり、東北学院、明治学院で教鞭を執り、横浜共立学園の 5 代目、日本人初の校長を務めた笹尾泰太郎氏がいる。

母が召された後に、両親が在籍していた横浜指路教会で受洗。本格的に教会生活を始めた。礼拝に通いはじめて、「聖書をみ言葉として聞く」体験を与えられた。幼い頃から目にしていた、両親の愛唱聖句を記した額縁の言葉「汝の聖言はわがあししの灯火」が路のひかりなり」を「まさにこれだ」と受け止めている。

大学卒業後、1979 年、日本テレビ放送網に入社。報道記者を経て、番組制作に携わる。11 PM、24 時間テレビ、ズームサタ等、テレビの全盛期を象徴するような番組に関わった。番組の企画を決め、視聴率につながるように配置する「編成」を担った時には、三つの時間帯(全日、プライム、ゴールデン)において視聴率トップを取る三冠王を達成した。

母が召された後に、両親が在籍していた横浜指路教会で受洗。本格的に教会生活を始めた。礼拝に通いはじめて、「聖書をみ言葉として聞く」体験を与えられた。幼い頃から目にしていた、両親の愛唱聖句を記した額縁の言葉「汝の聖言はわがあししの灯火」が路のひかりなり」を「まさにこれだ」と受け止めている。

退職後、茨城キリスト教学園の常務理事となった。日テレ時代の上司であり、学園の理事部長から声をかけられた。この 4 月からは理事長の重責を担っている。

学校という新たな環境に戸惑うこともあったが、「毎朝、礼拝をもって一日が始まる幸せを感じている」という。学内の会議等で祈り、スクーレルモットー「Peace Truth LOVE」を(いつ)語る時には、畏れと共に使命を感じる。「学校が目指す教育を深化させ、み言葉に触れられる学園であり続けたい」と語る。み言葉を光とし、その光を掲げつつ歩んでいる。

躓きの石橋

今年の神学校の卒業式の祝辞で「信徒とは闘わない、信徒は裁かない、信徒には負けても構わない、礼拝で慰められ、礼拝で整えられる、説教に集中すること」と語った。このことを私も肝に銘じているので越谷教会では温厚だ。

しかし、教会で「私は温厚だ」と叫んでも誰も信じてくれないのが悔しい。

教団の仕事で 3 月末、清里で開催される「宣教師会議」に出席するため高速道路を走っていたら、副牧師から電話が入った。副牧師に電話した。た。ハンズフリーで車の中で話すことができる。「次週の説教予告を週報でするので、至急聖書の箇所と説教題を知らせて欲しい」とのことだった。

私「つまずきの石」だよ。副牧師「えっ、えっ、つまずきの橋の石だよ。副牧師「あー、つまずきの石橋か」。私「……」。私は決心した。「副牧師とは闘わない。副牧師を裁かない。副牧師には負けても構わない」と。「躓きの石橋」にならないために。

(教団総会議長 石橋秀雄)